

▼ノリトレン錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 ノルトリプチリン塩酸塩 (U) nortriptyline hydrochloride 【分類】 三環系抗うつ薬

【単位】 ▼10mg・▼25mg/錠

【常用量】 30～75mg/日 [最大 150mg/日]

【用法】 分2～3

【透析患者への投与方法】 減量の必要なし (3,11)

【その他の報告】 非腎 CL が 38%低下するという報告もあるが、変化しないという報告もあり一致した見解がない (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (3,10,12)

【特徴】 アミトリプチリンの N 脱メチル化体。抗コリン作用が弱く鎮静作用が中等度で起立性低血圧の発生頻度は低い。

【主な副作用・毒性】 消化器症状、てんかん発作、無顆粒球症、麻痺性イレウス、悪性症候群、SIADH、血圧変動、パーキンソン症状、精神錯乱、運動失調、抗コリン作用（口渇、便秘、排尿困難、視調節障害、眼内圧亢進、鼻閉）など

【モニターすべき項目】 抗コリン作用、血圧、肝機能、ECG、CBC

【吸収】 速やかにほぼ完全に吸収される (U)

【F】 64% (1) 約 60% (11) 51% (13) 初回通過効果は 41～54% (1)

【tmax】 5.5hr (1) 7～10hr (13) 【Cmax】 1 日 125mg を経口投与後 138nM (13)

【代謝】 主に肝で CYP2D6、CYP2C19 により 10-OH 体、脱メチル体、10-OH-脱メチル体に代謝され一部は抱合を受ける (1) 10-OH 体のノルエピネフリン取り込み阻害作用は未変化体の 1/2 で抗ムスカリン作用は未変化体の 6%以下 (11) 10-OH 体血漿濃度は年齢に正相関し、Ccr に逆相関する (J Clin Psychopharmacol 10: 333-7,1990) CYP2D6 により代謝 (Bertilsson L: Clin Pharmacol Ther 82: 606-9, 2007) 10-水酸化体には活性がある (U) 10-hydroxynortriptyline の抗うつ効果を示唆する報告あり (1)

【排泄】 尿中未変化体排泄率 2% (13) 尿中回収率 62% (1) 代謝物は腎排泄 (U)

【CL】 0.42～1.23L/hr/kg (1) 7.2mL/min/kg、加齢・炎症により低下 (13)

【t1/2】 18.1～31.7hr (1) 18～60hr (11) 31hr、加齢により延長 (13) 25～38hr (12) 18～44hr (U)

【蛋白結合率】 94% (1) 92% (U) 90～95% (11) 92%、高脂血症で上昇 (13) 95% (12)

【Vd】 14～40L/kg (11) 18L/kg (13) 15～23L/kg (12) 14～22L/kg (U) 21.1～31.1L/kg (1)

【MW】 299.84

【透析性】 蛋白結合率が高いため透析されない (U) 資料なし (1)

【TDM のポイント】 至適血中濃度 50～150ng/mL (1,U) 抗うつ作用を示す血清濃度は 190～570nM、570nM 以上では効果が低下する (13) 【O/W 係数】 50.1 (11)

【pKa】 12.6 (1)

【相互作用】 抗コリン作用を有する薬剤 (1) エピネフリン、ノルエピネフリン：過度の交感神経興奮、重篤な高血圧、異常高熱等があらわれることがある (1) グアネチジン、ベタニジン等：これらの薬剤の降圧作用が減弱することがある (1) リファンピシン：代謝酵素誘導による作用減弱 (1) ワルファリンの肝代謝を抑制 (1)

【効果発現時間】 抗うつ効果は 2～3 週間後 (U,11)

【更新日】 20170123

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。